

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏 (福井・岐阜等含む) 地殻大型地震の可能性前兆 続報

★当該前兆につきましてはNo.069 ~075(10月21日付更新)の続報に詳しくまとめさせて戴きました。こちらをお読み下さい!

No.069~075続報で、途中経過報告をまとめさせて戴きました。こちらをお読み戴いた上での現状の続報です。現在認識の第7ステージ前兆群の極大は、ひとつで2013年11月07日認識です。これに対する初現が明確であれば、発生時期を $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 経験則で計算できますが、初現部分は前の前兆と重複して、明確に求められません。従って、前兆極大~前兆終息:前兆終息~発生=2.9:1 経験則を使用して、発生時期を求めることとなります。そこで、現在の第7ステージ前兆の完全終息確認が重要となります。

第7ステージ前兆群の初現は不明ですが、2013年02月以前にあったことは確かです。第5ステージ前兆群の初現が2013年1月末であることから、この時期に第7ステージ前兆群の初現がある可能性も示唆されました。その場合は、現在の第7ステージ前兆の終息は、2014年12月04日±と計算されました。

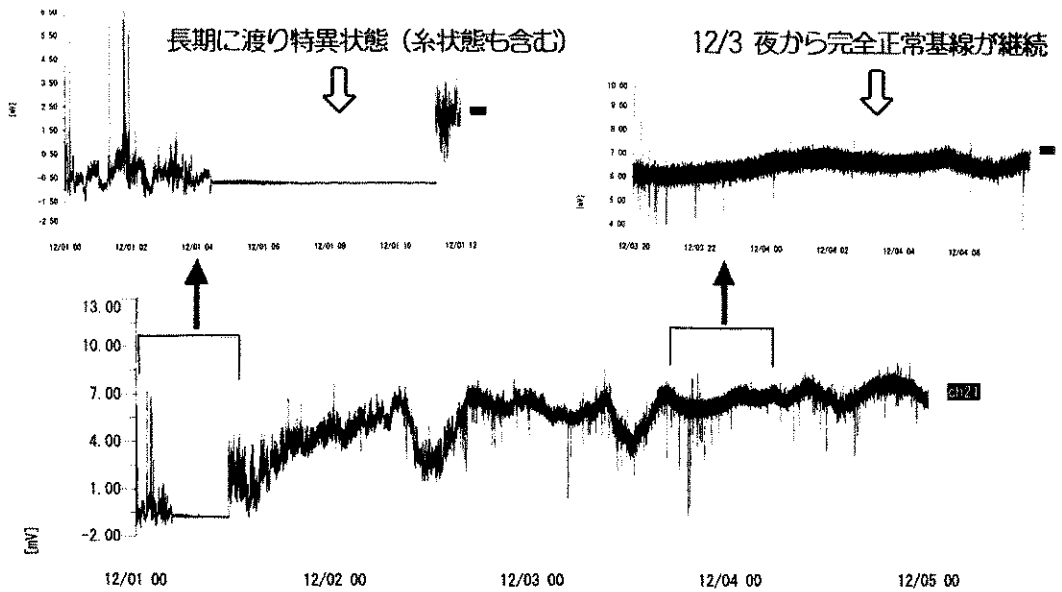
右上図は、No.1778長期前兆(当該前兆)の主たる前兆出現観測装置=八ヶ岳のCH21の基線です。下側基線は2014.12/1 00時~12/5 00時までの基線で、上側波形ふたつは拡大波形です。

見て戴くとお判りのとおり、12/1~12/3までは、基線変動が大きく糸状態も含め前兆が出現していることが判ります。CH21は、長期間このような特異状態が継続していました。それが12/3夜から、右上拡大波形のとおり、通常静穏状態の基線に復帰し、特異状態が消えました。基線から上下に針状変動の流星による反射エコーも記録され、完全静穏正常基線です。仮計算通りの12/4にCH21の特異状態前兆が完全終息し、正常基線に復帰継続したことから、No.1778前兆が終息した可能性も考えられました。

しかし、正常基線に戻ったCH21が12/6から再び特異状態となりました。加えて、殆ど特異状態が出現しなくなっていたCH17が24時間継続の完全糸状態の特異状態となり、さらに今まで静穏だったCH20までもが特異状態継続出現となりました。No.1778前兆は静穏傾向にありましたが、この様な前兆顕著化変化は考えにくい変化と認識されます。

PHP 新書「地震予報」に詳しく公開したことから、2014年7月以降にWJワザされたTV番組でも、当該No.1778長期前兆=近畿圏推定地震の可能性前兆について、紹介させて戴いておりますが、「地震前兆検知・実験観測情報(公開実験)」では、既に公開報告しておりますが、広く一般公開はしていない別のM7以上規模の地殻地震が推定されるNo.2443前兆があります(こちらはNo.1778前兆よりも先の、早い時期に発生する可能性有)このNo.2443前兆が、12月初旬から前兆レベルが大きくなりだし、12月06日からは遠隔観測点データも含め、非常に顕著化しています。

(★実験観測情報はE-mailでの配信も開始! 参加者募集中です)



ご存じのとおり、本観測での各観測装置は、直接受信できないFM放送局を周波数をずらしてモニターしていますが、同じ周波数に、例えば、北海道函館局250wと四国新居浜100wと云う様に、離れた地域のFM放送局が複数存在する場合があります。No.1778長期前兆の第7ステージ前兆である、CH16, 17, 20, 21 はNo.2443前兆で前兆が出現する放送局の影響を受けます。12月06日から特に顕著化したNo.2443前兆の影響でNo.1778前兆出現観測装置の前兆が大きくなった可能性は濃厚で、特異状態の日々変化比較からもNo.2443前兆の影響があることが確認されました。

従ってNo.1778前兆が12/4に終息した可能性も否定できません。しかしNo.2443前兆顕著化の影響で、No.1778前兆が既に終息したのかを確認することが現状困難な状況です。

①問題のNo.2443前兆が終息し静穏期に入った時点で、No.1778前兆認識のCH16, 17, 20, 21 に前兆が継続していれば、No.1778前兆はまだ静穏期に入っていないことが確認できます。

②No.2443前兆と同時に静穏化した場合には、それ以前にNo.1778前兆は静穏化していた可能性が否定できません。その場合は、可能性が考えやすい12/4に終息した可能性を考慮し、前兆静穏化のあと、地震発生迄の間に直前特異が出現する可能性も考えられますので、これを確認します。直前特異は(PHP新書地震予報 304頁・地震予報概要2014A 14頁参照) $T_{map}:T_{pa}=6:1$ 経験則で出現する前兆です。(Tmap=前兆極大~発生迄の期間、Tpa=直前特異出現~発生迄の期間)

仮に12/4にNo.1778前兆が終息していた場合は、2015年01月22日±に直前特異出現の可能性があるので、これを確認予定です。

現在言える確かなことは、12/3時点ではNo.1778前兆は出現していたため、2015年4月上旬以前には、No.1778前兆から推定される大型地震は発生する筈が無いと云うことです。いついつ迄は発生しないと言えることは大変重要なことです。まずは、No.2443前兆の終息を確認し、前述観測装置の変化を見て、続報させて戴きます。 C) Copyright 2014 YSBO 八ヶ岳南麓天文台